

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

| | |
|--|--|
| <p>①鈴木信行著『同窓会に行けない症候群』日経BP社 (2019年8月刊, 236頁, 四六判)</p> <p>ある会社の調査によれば、年齢が低いほど、同窓会に行かない社会人が増えるという。70代の同窓会に参加する率が62.2%であるのに対し、60代は42.5%、50代は24.8%だった。本書はその背景として、SNS(交流サイト)が普及した結果、容易に幼なじみと会えることや名簿づくりが個人情報保護法によって困難になったことをあげる。そのうえで、最大の理由は「自分に自信がないから」だと指摘。とくに50代以下の「平成世代」は右肩上がりの時代が過ぎ、バブルの残り香も消えるなか、理想の地位にはつげず、収入も頭打ちだ。本書では、こうした同窓会に背を向ける人たちの理由を掘り下げて紹介する一方、行かないことによる「孤立化」のリスクについても言及している。</p> | <p>③新井健一著『働かない技術』日本経済新聞出版社 (2019年8月刊, 245頁, 新書判)</p> <p>著者は、働き方改革が叫ばれ、欧米流の仕事のやり方や生産性の高さが称賛されるいまこそ、日本人のキャリアや可能性を点検すべきときだと主張。とくに30代後半から40代のミドル世代で、働き方改革のキーマンとなる課長世代を想定し、「働かない技術」(業務削減・効率化)のための考え方や「真の働く技術」を解説する。今後、管理職の働き方は、大きく二つに分かれると指摘。職務範囲が限定されず、職場のメンバーを育成していく「役割給人材」と、ポストが固定され、求められる職務の範囲内で自ら働く「職務給人材」だ。日本人は全員が同様に多能工化しようとするので、長時間労働になりがち。二分化したミドル世代にはこうした非効率化の解決が求められそうだ。</p> |
| <p>②兵藤釗著『戦後史を生きる—労働問題研究私史』同時代社 (2019年7月刊, 548頁, 四六判)</p> <p>労働問題研究の長老である著者が、これまで取り組んできた研究の成果をオーラルヒストリー形式で振り返り、自らの思考の軌跡と時代精神を語る。本書は、第二次大戦の敗北から「連合」の発足に至るまでの時間を労働の「戦後史」の対象として位置づけている。大学に入り、大河内一男氏のゼミで労働問題研究の洗礼を受け、大学院では氏原正次郎氏に師事したという。その後、自らの研究を深めつつ、大学紛争にも巻き込まれていく。また国鉄労働運動への提言を行ったほか、総評四十年史編さんに参加し、「労働の戦後史」も取りまとめた。著者は「自らの生きる課題を託しうるような仕事に恵まれたことは幸いでもあり、その時々になした選択に後悔はしていない」と述べている。</p> | <p>④石蔵文信著『定年不調』集英社 (2019年8月刊, 221頁, 新書判)</p> <p>著者は、仕事中心にバリバリと働いてきた50~60代の定年前後の男性にみられる心身の不調を「定年不調」と名づけた。メンタルの危機を迎え、生活環境も変化するなか、体と精神が悲鳴を上げる男性は少なくならしい。更年期という言葉に抵抗感や違和感を覚える人もいるようだが、女性と同様、男性にも「更年期障害」があると述べ、多様な不調の症候群に警鐘を鳴らす。著者は定年不調の諸症状は「男性ホルモンの低下が主な原因ではない」とし、①夫婦でカウンセリングを受ける②「セロトニン」を増やす③「認知行動療法」を行う——などを治療の柱にするとの考えだ。また、老後の不安のなかでもとりわけ重大な「男性の孤独」の解決が喫緊の課題との見方を示した。</p> |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2019年9月—10月労働図書館受け入れ)

| | |
|--|--|
| ⑤秋本治著『秋本治の仕事術』集英社(189頁, 四六判) | ⑩豊川義明著『労働における事実と法』日本評論社(xv+343頁, A5判) |
| ⑥和田武広著『共済事業の源流をたずねて: 賀川豊彦と協同組合保険』緑蔭書房(284頁, A5判) | ⑪大橋弘著『ストライキ消滅』風媒社(255頁, 四六判) |
| ⑦山田英夫著『ビジネス・フレームワークの落とし穴』光文社(203頁, 新書判) | ⑫新田龍著『ブラックユニオン』青林堂(220頁, 四六判) |
| ⑧谷田千里ほか編著『タニタの働き方革命』日本経済新聞出版社(222頁, 四六判) | ⑬植山直人ほか著『安全な医療のための「働き方改革」』岩波書店(84頁, A5判) |
| ⑨松下慶太著『モバイルメディア時代の働き方』勁草書房(x+254頁, 四六判) | ⑭大原扁理著『年収90万円でハッピーライフ』筑摩書房(245頁, A6判) |

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書124,704冊、洋書32,563冊、和洋の製本雑誌26,719冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

